国際ボランティア団体 チーム アジアの風 The WIND of ASIA
NEWS LETTER 2019.1.1
No.3
URL：https://wind-of-asia.com
E-mail：info@wind-of-asia.com

「カンボジアプロジェクト 2018」【好奇心と探求心】

カンボジア プノンペンで厳しい家庭環境から生きづらさを感じている子ども達に教育支援を行なっている「ひろしまハウス」。前回の夏に続いて２回目の訪問でした。前日の打ち合わせを含め2018年12月26日(水)から28日(金)の３日間の日程で訪問し、総勢60名の子ども達が「鳴子踊り」と「フライングディスク」のワークショップで楽しみました。

「鳴子踊りをしよう」

ワークショップ第１日目。

オープニングでは、映像で今回のワークショップで行う「鳴子踊り」や「フライングディスク競技」がどのようなものなのかを確認しました。子ども達はこれから繰り広げられる二日間のアクティビティの映像に釘付けでした。

今回は高知県の「よさこい祭り」が発祥で、日本の若者を中心に全国で熱狂的に踊られている「鳴子踊り」を取り上げました。全員に「鳴子」が配布され、日本で鳴子踊りのチームを主催する大久保雅弘氏の師範の後、実際に輪を作って踊りました。見たことのない楽器「鳴子」に興味津々。1時間ほどのワークショップでしたが、大いに盛り上がりました。

カンボジアの公教育では、情操に関わる授業がほとんど行われていおらず、芸術に関する科目は社会科の中の一つの単元として取り入れられているに過ぎません。音楽や美術の授業を受けたことのない子ども達がほとんどです。そのためにテンポに合わせて手拍子を打つことや、踊りながら前に進むこともなかなか難しい。しかし子ども達の「好奇心」は素晴らしく、みるみる上達していきました。「鳴子踊り」に大変興味を持ったようで、これからも継続的に練習を続けてくれることになりました。

歌と踊りに国境はない

「ひろしまハウス」に一歩足を踏み入れると、子ども達がすごい勢いで駆け寄ってきて日本語で「こんにちは！お元気ですか？」と挨拶してくれました。日本ではなかなか見られない積極性に驚きました。

今回企画させていただいたのは鳴子踊りワークショップ。私は、学生時代に鳴子踊りを踊っていました。そのときに大切にしていたのが、「楽しい」という気持ちを共有すること。歌や踊りには、周りにいる人を巻き込んで、笑顔に変える力があります。子ども達は、初めて聞く日本語の歌に少し戸惑っているようにも見えましたが、持ち前の積極性で一生懸命取り組んでくれました。周りの人と手をつなぐ振付になると、大声を出して盛り上がり、とてもいい笑顔で踊ってくれました。

離れた国の文化でも、楽しい時間を共できたことがとても嬉しかったです。子ども達の笑顔が、私にとっても一生忘れられない思い出になりました。

大久保 雅弘

「フライングディスク教室 IN CAMBODIA ～マイディスクをつくって遊ぼう～」

ワークショップ第2日目。

前半は「マーブリング技法」を用いて無地のフリスビーに色づけを行いマイディスクを作りました。水面に浮かんだ絵の具に竹串を使って、花やハートの模様をつくる子ども達も現れました。初めての経験にもかかわらず、試行錯誤しながら色鮮やかな模様が真っ白のディスクに踊ります。子ども達の本来持っている「探求心」は素晴らしいです。

後半はミニ大会を開催。アキュラシーゴールにフライングディスクを10投投げ入れる「アキュラシー競技」を行いました。基本に忠実にスタッフの師範をまねて投げたり、思い思いの投げ方を試したりする子ども達。残念ながらゴールを逃すと日本語で「頑張れー」、見事ゴールを決めると「ナイススロー」元気のいい声がひろしまハウスに響きます。最後には全員の健闘をたたえ表彰式を行いそれぞれ金、銀、銅メダルと敢闘賞を授与しました。

チーム「アジアの風」のカンボジアプロジェクト、「アートキャラバン2018」が無事終了しました。子ども達の「笑顔」「純粋さ」「好奇心の強さ」「礼儀正しさ」「素朴さ」に、我々が力をいただいたワークショップでした。

日本の子ども達にも、カンボジアの子ども達の話を伝えたいです。そして、国が違っても「同じ時代を生きる」子ども達が協力して明るい未来を作っていってほしいと感じました。今年の我々の活動を「日本における国際教育のカリキュラムに生かしていくこと」これからの課題も見えてきました。

今回のワークショップ開催にあたり、フライングディスク（アジアの風オリジナルバージョン）の提供をしていただいたイノーバジャパン様、子ども達にたくさんのお菓子を提供していただいた(株)遊都様に感謝申し上げます。

【ひろしまハウス】

「ひろしまハウス」は原爆の焦土から立ち上がった広島市民が中心となり、平和を愛する人々がカンボジアの首都・プノンペンのウナローム寺院内に建設した交流施設です。海外からの支援が始まり東南アジア屈指の経済成長率を誇っている現在でも、ポルポトの大虐殺の影響を受け、カンボジアの教育のレベルは、日本と比べるととても低いといわざるを得ません。教師のレベル、教育への考えの乏しさ、貧富の差もカンボジアの発展を妨げる大きな要因となっています。「ひろしまハウス」では学校に行くことが困難なカンボジアの子ども達に対し、給食や教育（クメール語・英語・日本語・算数等）の支援をしています。

友廣壮希 氏
「ひろしまハウス」ゼネラルマネージャー
広島市出身。カンボジア１部リーグプロサッカー選手。
Asia Europe United F.C所属。

写真提供：大久保 雅弘 氏